

凡例

- 一、本書は、角田市郷土資料館所蔵「牟宇姫関係消息」150点の中から、63点について写真図版・翻刻・原文・解説を収録したものである。
- 一、1章では、概説と主な差出人の消息を20点、2章では、五郎八姫消息を47点取り上げた。(1章No.6～9の五郎八姫消息も再掲)
- 一、写真図版左に、当館資料番号・資料群名・法量(縦×横cm)を記した。
- 一、2章の翻刻では、可能な限り原本の文字配置をそのまま表した。ただし、形態が折紙の場合、下半分については、読み易くするため上下反転させた。変体仮名は平仮名に改めた。
- 一、原文は、常用漢字を用い、変体仮名は平仮名に改め、適宜、句点・読点・並列点・傍注を加えた。
- 一、文意の通じない文字や間違いと思われる文字には(ママ)、疑問の箇所には(カ)と記した。判読できかねた文字や欠損部分は、字数が明確な場合、文字数分の□で、不明な場合は、□と記した。文字が推定される場合は、□の中に文字を記した。
- 一、追而書は袖にまとめ(袖追書)と傍注を付した。
- 一、折紙で表から見返しに移る改行、追而書が袖から行間へ移る際の改行など、改行の箇所を「」で示した。
- 一、封の墨引きは、状態に応じて(切封墨引)などと記した。
- 一、ウワ書部分は、「」で括り、(ウワ書)などと傍注を付した。
- 一、文献・資料の表記は、次の略記を用いた。
 - 『仙台市史資料編10～13 伊達政宗文書1～4』↓『政宗文書』
 - 『大日本古文書家わけ第三 伊達家文書』↓『伊達家文書』
 - 『伊達治家記録』↓『治家記録』
 - 『伊達世臣家譜』↓『世臣家譜』
- 一、本書の執筆及び資料の解説は、元仙台市博物館館長佐藤憲一(1章概説・No.1～18)、角田市郷土資料館館長碓子幸枝(1章No.19・20、2章)が担当した。資料の整理は、同副館長齋藤彰裕、編集・図表作成は、同調査員氏家若子が担当した。

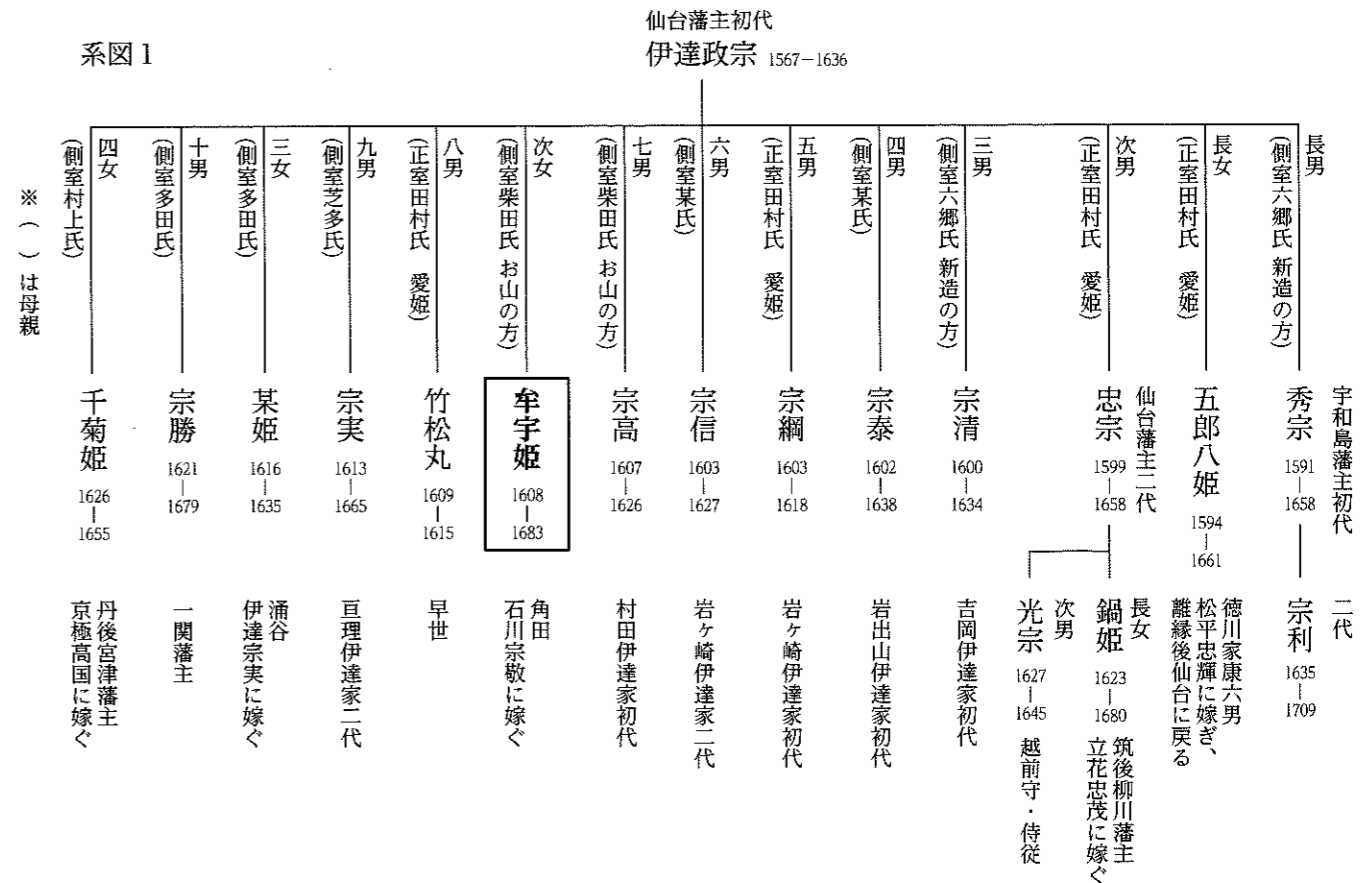
目次

口絵			
発刊によせて			
凡例			
目次			
牟宇姫関連略系図			
1章 概説 牟宇姫への手紙			
角田市郷土資料館所蔵の牟宇姫宛の手紙について	佐藤 憲一		1
1 伊達政宗消息 牟宇姫宛	年月日未詳		5
2 伊達政宗消息 牟宇姫宛	(寛永八年)七月二十八日		7
3 伊達政宗消息 牟宇姫宛	(寛永十年)三月十五日		9
4 石川宗敬消息 牟宇姫宛	(年未詳)九月十一日		11
5 お東(義姫)消息 牟宇姫宛	(元和九年)文月六日		13
6 五郎八姫消息 牟宇姫宛	(年月未詳)二十二日		16
7 五郎八姫消息 牟宇姫宛	(年月未詳)二十二日		18
8 五郎八姫消息 牟宇姫宛	(年月未詳)二十八日		20
9 五郎八姫消息 牟宇姫宛	(年月未詳)八日		23
10 伊達秀宗消息 牟宇姫宛	(正保二年)五月一日		26
11 伊達忠宗消息 牟宇姫宛	(正保四年)四月十九日		28
12 伊達宗信消息 牟宇姫宛	(年未詳)六月二十七日		30
13 伊達宗高消息 牟宇姫宛	(寛永三年)閏四月二十二日		32
14 伊達宗高消息 牟宇姫宛	(寛永三年)五月七日		35
15 伊達宗勝消息 牟宇姫宛	(正保二年)六月三日		38
16 千菊姫消息 牟宇姫宛	(正保四年)正月三日		41
17 中将消息 牟宇姫宛	(年月未詳)十八日		43
18 鍋姫消息 牟宇姫宛	(延宝二年)七月九日		46
牟宇姫と京都とのつながり		碓子 幸枝	49
19 帥局消息 牟宇姫宛	年月日未詳		50
20 帥局消息 牟宇姫宛	(寛文元年)月日未詳		54
2章 牟宇姫への手紙 五郎八姫		角田市郷土資料館	
牟宇姫ゆかりの地 仙台			59
五郎八姫関係資料			61
牟宇姫への手紙 五郎八姫			62
図説 手紙の書き方			72
1 五郎八姫消息 牟宇姫宛	(年月未詳)二十二日		79
政宗、来臨			
2 五郎八姫消息 牟宇姫宛	(年月未詳)二十二日		81
牟宇姫、里帰り			

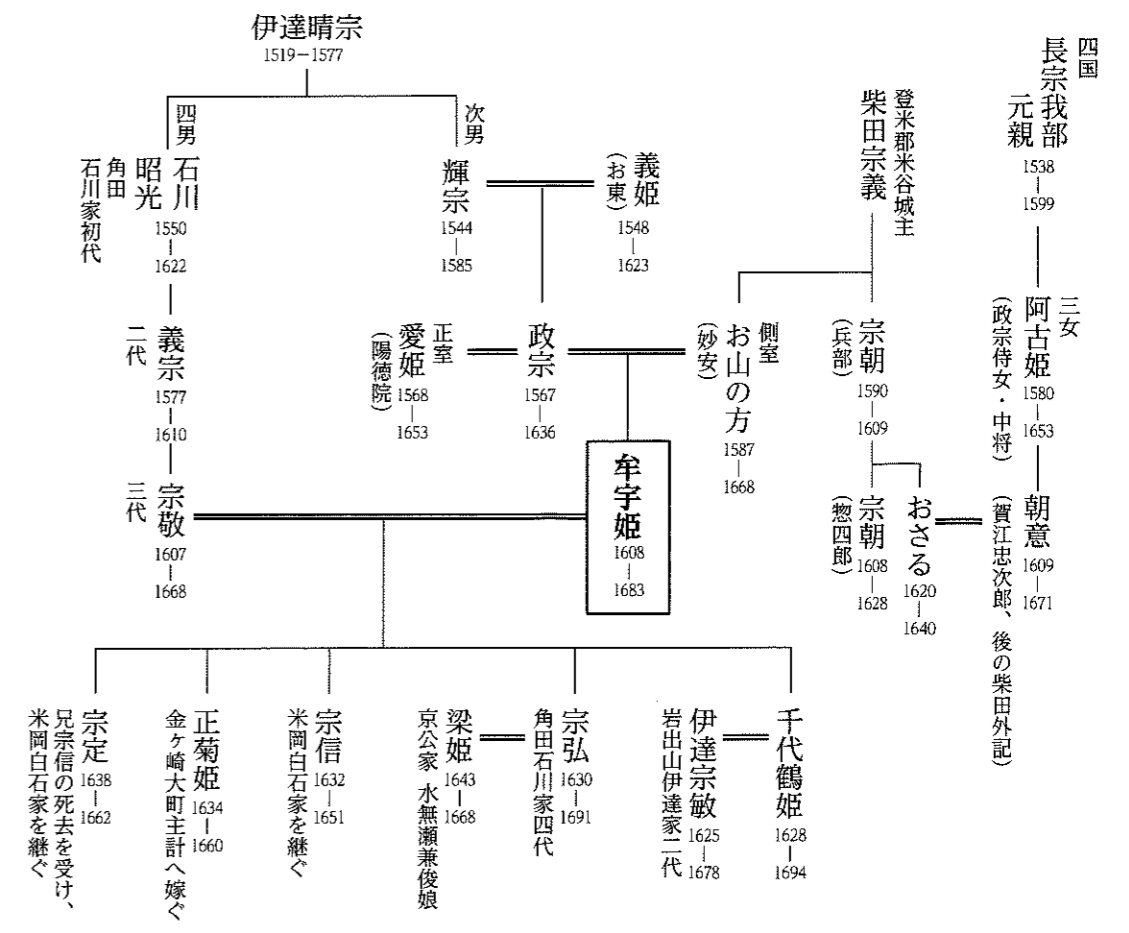
3	五郎八姫消息 牟宇姫宛 年月日未詳……………	83	16	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 二十三日……………	109
4	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十日……………	85	17	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 七日……………	111
5	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十四日……………	87	18	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十日……………	113
6	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 二十七日……………	89	19	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 八日……………	115
7	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十九日……………	91	20	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十六日……………	117
8	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十一日……………	93	21	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (寛永十九年八月) 十三日……………	119
9	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十二日……………	95	22	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (寛永十九年八月) 十八日……………	121
10	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 八日……………	97	23	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 二十日……………	123
11	五郎八姫消息 牟宇姫宛 年月日未詳……………	99	24	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 八日……………	127
12	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十三日……………	101	25	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十八日……………	129
13	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十五日……………	103	26	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 二十二日……………	131
14	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十一日……………	105	27	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十六日……………	133
15	五郎八姫消息 御山宛 (年月未詳) 十二日カ……………	107	28	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 二十五日……………	135
	秘蔵の香「梅花」……………			長雨の憂鬱……………	
29	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 九日……………	137	41	五郎八姫消息 牟宇姫宛 年月日未詳……………	161
30	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 六日……………	139	42	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 六日……………	163
31	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 九日……………	141	43	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十四日……………	167
32	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 一日……………	143	44	五郎八姫消息 牟宇姫宛 年月日未詳……………	169
33	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 二十八日……………	145	45	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十六日カ……………	171
34	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 七日……………	147	46	五郎八姫消息 牟宇姫宛 年月日未詳……………	173
35	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (寛永二十年八月) 十六日……………	149	47	五郎八姫消息 牟宇姫宛 年月日未詳……………	175
36	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 十九日……………	151		目霞み……………	
37	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 三日……………	153		あとがき……………	
38	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 三日……………	155		収録資料一覧……………	
39	五郎八姫消息 牟宇姫宛 年月日未詳……………	157		牟宇姫関連年表……………	
40	五郎八姫消息 牟宇姫宛 (年月未詳) 八日……………	159		主な参考文献・協力者……………	
	中將、江戸に上る……………				
	祝い酒と手震い……………				
	おるり縁組、忠宗の答え……………				
	縁組指南……………				
	風邪と花見酒……………				
	宇津保、竹取物語……………				
	晩方は忍びにて……………				
	忠宗、「瘡」平癒……………				
	八朔の御祝儀……………				
	半造作……………				
	妙安、長逗留……………				
	忍びの事……………				
	石川大和、雉子を贈る……………				
	正菊姫、五郎八姫に会う……………				
	千代鶴姫、五郎八姫に会う……………				
	桐の板の事……………				
	大橋落下を案ず……………				
	茶点習い……………				
	五郎助、御目見え……………				
	五郎助、五郎八姫に会う……………				
	陽徳院の腫物……………				
	熊千代、元服……………				
	熊千代、刀拝領……………				
	懐妊……………				
	おるり、御目見え……………				
	嵐……………				
	能組の知らせ……………				
	匂い袋……………				
	春の雪……………				
	紙の桜ひらひら……………				

1章 概説 牟宇姫への手紙

牟宇姫関連略系図



系図2



はじめに

牟宇姫(1608~83)は仙台藩初代藩主伊達政宗(1567~1636)の次女である。慶長13年仙台城で生まれた。母は側室・柴田氏お山の方(1587~1668)。政宗42歳の子である。

12歳で政宗の家臣石川宗敬(1607~68)と結婚。石川氏は伊達家臣団の筆頭で、家格は一門である。角田(宮城県角田市)で2万1千石を領した。

政宗には14人の子どもがいたが、牟宇姫はその9番目の子である。長女が徳川家康の六男・松平忠輝に嫁いだ五郎八姫で、しばらく男子が続き、久し振りに授かった女子である。

角田市郷土資料館(以下、資料館と略す)には、政宗や牟宇姫の兄弟、姉妹、その他から牟宇姫に宛てた手紙(仮名消息)が沢山残されている。その数、約150通。内、3通は牟宇姫の母・お山の方宛て、7通が不明(雑)である。大部分は石川家に伝来したものである。江戸時代初期から前期の一女性宛の手紙がこれほどまとまって残っている例は全国的にも稀で貴重である。

資料館では今年度から3カ年計画で順次これらの手紙を解説し、『角田市文化財調査報告書第53集~55集 牟宇姫への手紙(全三巻)』として刊行する予定である。第53集には主に姉・五郎八姫からの手紙約47通を収録する。

手紙の数量と内訳

手紙の総数は約150通である。内訳は左の通り。

差出人別内訳	単位:通	備考	報告書収録予定
五郎八姫(政宗長女)	47	内、1通はお山の方宛て	第53集
伊達政宗	13	内、2通はお山の方宛て	第54集
石川宗敬(牟宇姫夫)	1		
伊達秀宗(政宗長男)	3		
伊達忠宗(政宗次男)	22		
伊達宗信(政宗六男)	2		
伊達宗高(政宗七男)	12		
伊達宗勝(政宗十男)	1		
伊達宗利(秀宗嗣子)	2		
義姫(政宗母)	2		第55集
千菊姫(政宗四女)	4		
鍋姫(忠宗長女)	8		
帥局(後水尾天皇女房 公家水無瀬家)	21		
七(公家水無瀬家)	2		
中将(政宗侍女)	3		
不明(雑)	7		
合計	150		

令和元年(2019) 角田市郷土資料館調べ

この内、石川家に伝来した文書(以下、「石川家資料」と記す)は146通、石川家の家臣和田家に伝来した文書(以下、「和田家資料」と記す)は4通である(※1)。

伝来の経緯

角田石川家の初代、石川大和守昭光(1550~1622)は伊達政宗の祖父・晴宗の四男で、陸奥国石川郡(福島県)の領主石川家を継いだ。石川氏は源氏の流れを汲む鎌倉時代からの名門である。初め政宗と敵対していたが天正18年(1590)家臣となり、伊達家一門の筆頭として活躍。生涯、政宗の良き相談相手となった。

昭光が角田城に入ったのは慶長3年(1598)。同8年には嫡子・義宗に家督を譲り柴田郡村田(宮城県村田町)に隠居するが、同15年義宗が34歳の若さで死去したため角田にもどり、政宗の命で4歳の熊増丸(宗敬)の後見人となった。以後、元和7年(1621)宗敬が家督を相続するまで家政を執った。翌年7月10日、73歳で没している。墓は石川家の菩提寺、角田の長泉寺にある。

このような古い歴史をもつ石川家には中世以来の古文書が伝来したが、現在は各所に分散している(※2)。今回収録した牟宇姫宛の手紙類はかつて石川家から角田市に寄贈されたものである。

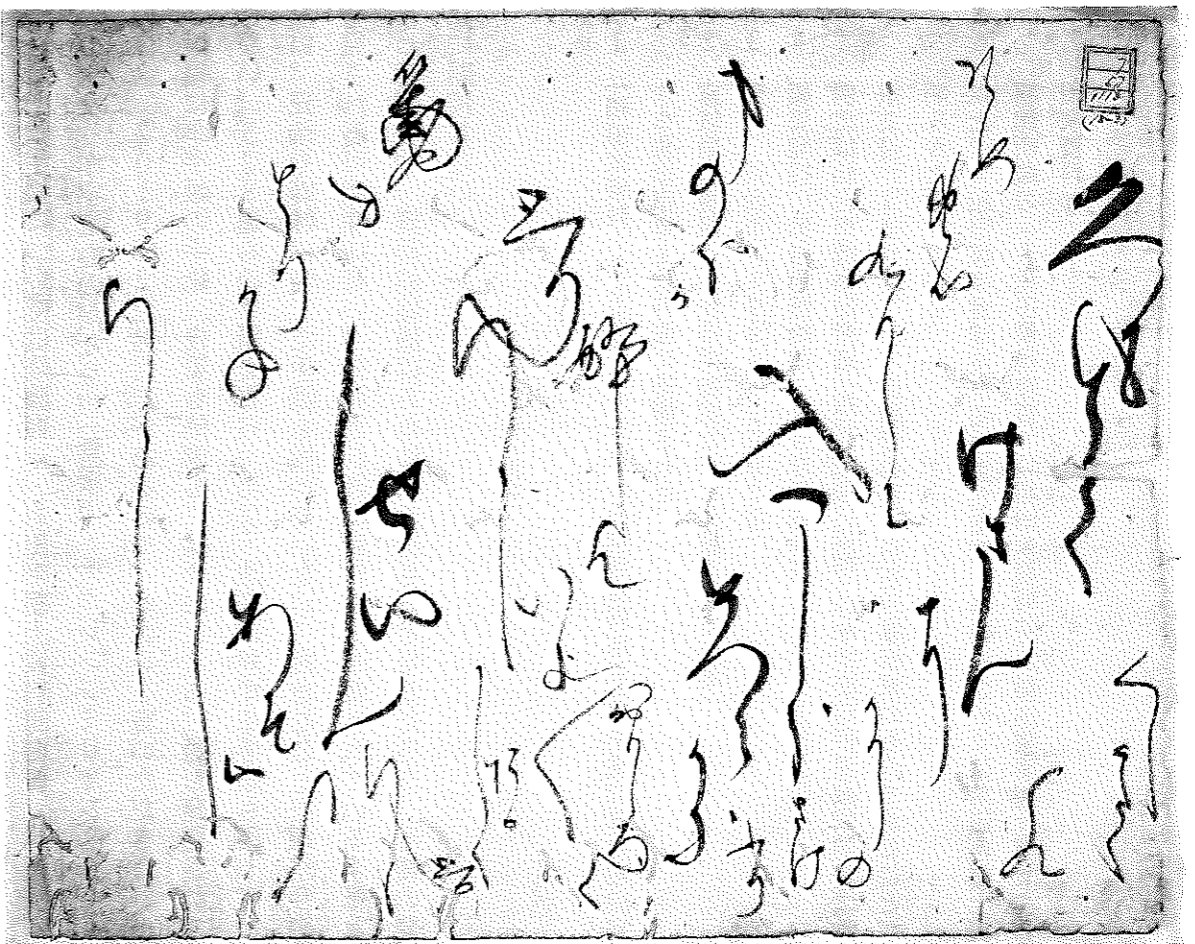
この中に、牟宇姫宛の手紙類を整理したときの記録と思われる左のような「覚書」がある(口絵カラー写真参照)。年代は不明だが、紙質・筆跡・形式から江戸時代のものであろう。

覚

一、 貞山様御自筆 三百廿八	一、 京極山城様 奥様御自筆
一、 御同人様御自筆 御か□□□□	一、 おひかしさま御文 五つ
一、 義山様御自筆 五十六	一、 昭光様御文 九つ
一、 御西館様御自筆 六十二	一、 吉つ
一、 孝勝院様御自筆 吉つ	
一、 筑前守様御文 二つ	
一、 右衛門様御文 式十一	

合計485通になる。(御□□□□除く)

最も多いのは政宗自筆の手紙で328通、大変な数である。次に多いのが五郎八姫の62通、忠宗の56通と続く。これと比較すると現在資料館に所蔵されている数は政宗で317通少なく、五郎八姫で16通、忠宗で34通少ない。



757111321 石川家資料 32・0×39・3cm

【原文】
久にとてけさんに入、一しほめつらかに思ひまいらせ候。せいしんあそ
ハし』^(初) ^(九献)そのの九もしに、事のほか酔候て、いよく筆もとりかねまい
らせ候。』^(眞) ^(難)くしかたく御入候。かもしのさけふり、おもしろく、おかし
く思ひまいらせ候。かしく。

【大意】

久し振りにお逢いし、とても嬉しかったです。立派に成人し、初めてのお酒ということで、お父さんも殊の外酔ってしまい、なかなか筆もとりかね詳しく書けないほどです。お母さんのお酒を飲む様子、面白く、可笑しかったね。かしく。

【解説】

伊達政宗が牟宇姫に宛てた自筆の手紙である。宛名はどこにも見えないが、内容から牟宇姫本人か牟宇姫の侍女(身のまわりの世話をするお付きの女性)に宛てたもの。政宗が普段使用する料紙より横幅が短いので、何かの理由で後世に宛名の部分が切り取られた可能性がある。内容は牟宇姫の成人の祝いに、親子3人水入らずでお酒を飲んだ時のもの。牟宇姫にとっては初めての酒だが、嬉しかった政宗はつい飲み過ぎてしまったのだろう。「筆もとりかねまいらせ候」と述べている。そういえば筆跡もどことなく頼りない。

面白いのは母・お山の方(天溪院)。祝いの酒ということで口にしたのはよかったが、その飲みっぷりがよほど可笑しかったのだろう。政宗は大の酒好き。あるいは政宗が無理に勧めたのかもしれない。お山の方が顔を赤くし、ふらふらして困惑している様子が目に浮かぶ。それを見て政宗と牟宇姫が大笑い、といったところか。

ところで、牟宇姫が成人したのがいつか、分かっていない。当時の女子の成人年齢は決まっておらず、大体11歳から16歳。結婚が決まったときや、決まりそうなときがタイミングだったらしい。とすると、牟宇姫が石川宗敬と結婚したのが元和5年(1619)だから、その頃か。牟宇姫が11、12歳ということになる。とすれば父・政宗が53歳、母・お山

の方33歳頃か。
ともあれ、娘の成人を祝う親子の慶びが伝わってくる微笑ましい手紙である。



伊達政宗画像 狩野安信筆 仙台市博物館

馬上少年過
世平白髪多
残軀天所救
不樂是如何



お山の方(天溪院)木像 長泉寺

綱宗の生母貝姫は、京都の公家櫛笥家の生まれ。貝姫の姉妹、櫛笥隆子（逢春門院1604～85）は帥局と同じく後水尾天皇に仕え、後西天皇（1637～85）を生んだ。後西天皇と綱宗は従兄である。綱宗の逼塞は、後西天皇在位期間中（1654～63）の出来事。「陸奥守殿（綱宗）のことは、お困り事のご様子が色々取り沙汰されておりました」とあるので、禁中や公家衆の間でも噂に上っていたのだろう。

後水尾法皇、明正上皇、東福門院（徳川和子）は、当初岩倉御殿（京都市左京区岩倉）に避難したが、法皇はその後2月5日に伏見宮邸へ、さらに18日には一条教輔邸を仮御所として御幸した。新たな仙洞御所が完成し、法皇が新御所に移ったのは2年後の寛文3年8月21日である。（※1）

帥局の手紙はこのような状況下で認められたもの。互いに不運な出来事を経て交わされた手紙であった。

文末にある「やがて、めでたい知らせも届くことでしょう」とは、姪

の梁姫懐妊の知らせを期待しての言葉である。

20

手紙の後半は、帥局が暮らす京の近況を知らせる内容である。文中に「御室の御所さまは、ご機嫌よく過ごされています」とあるが、帥局が「御室の御所さま」と呼ぶのは後水尾上皇との間に生まれた息子、性承法親王（1637～78）のこと。寛永14年（1637）帥局が31歳の時に産まれた皇子はこの時25歳。京都仁和寺門跡二十二世となり、後大御室と呼ばれていた。仁和寺は皇室ゆかりの門跡寺院。真言宗御室派の総本山であり、明治維新まで歴代法親王が住持となって御室御所と称した。

※1 京都大火についての解説は、久保貴子「徳川和子」（吉川弘文館 2008年）を参考にした。

さらに「一門方は何事もなく暮らしているのでご安心ください」と書いている。一門方とは梁姫と帥局の生家、公家の水無瀬家一門のことである。

文中の「正月十五日にハ禁中、仙洞、堂上方の裏に炎上にて、おそろしき御事、覚しめしやり候へく候」とは、万治4年（寛文元年、1661）1月15日に発生した京都大火のこと。禁中は天皇の御所、仙洞は上皇や法皇の住む仙洞御所、堂上方とは公家衆のことである。

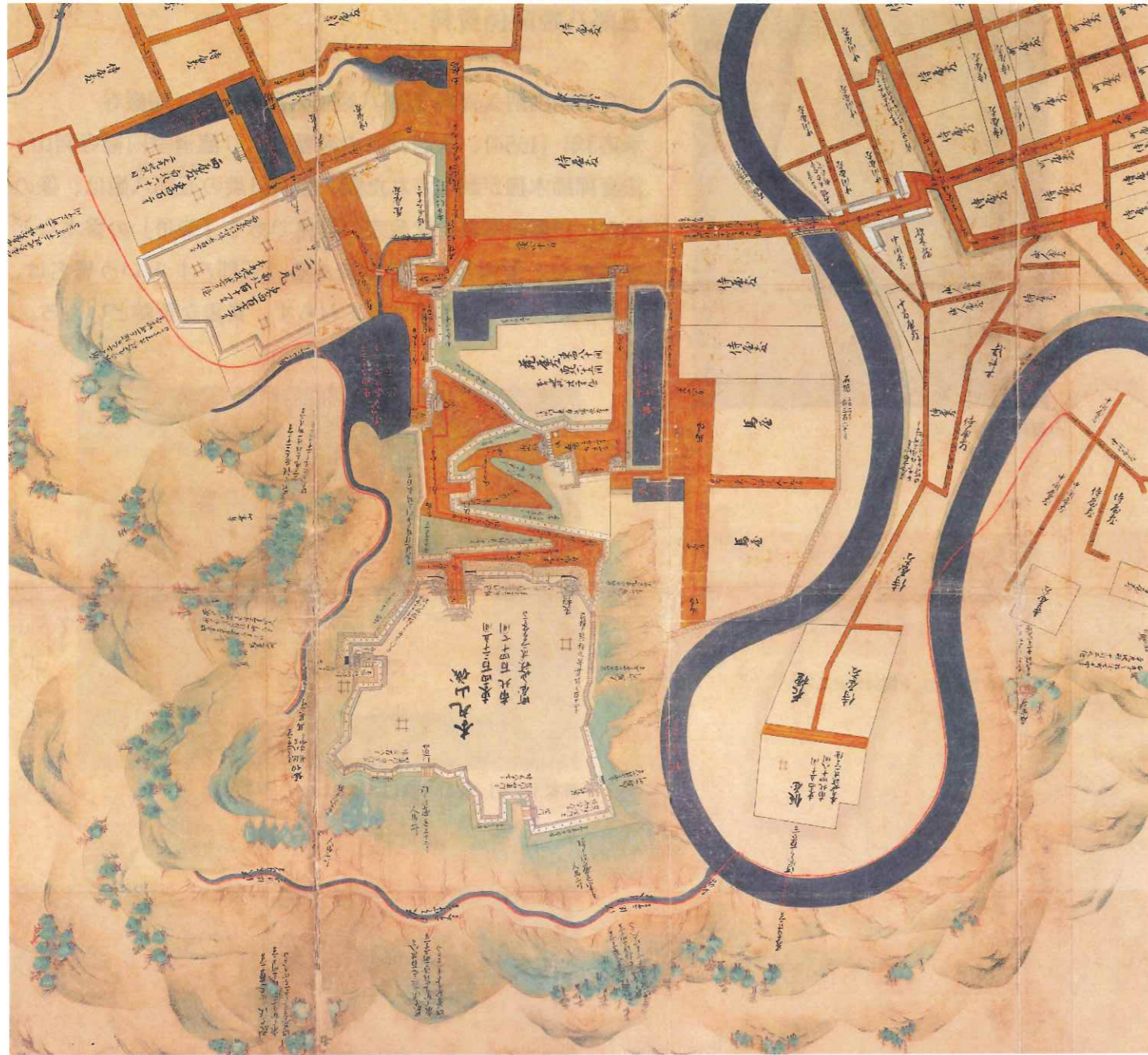
関白二条光平邸から出火した火事は内裏、仙洞御所、新院御所、女院御所と、すべての御所を焼き尽くす大火となった。

さらに「上々様方、御機嫌よく我々なども何事なく御供申候」とあるのは、帥局が後水尾法皇らの避難に御供をしているということだろう。

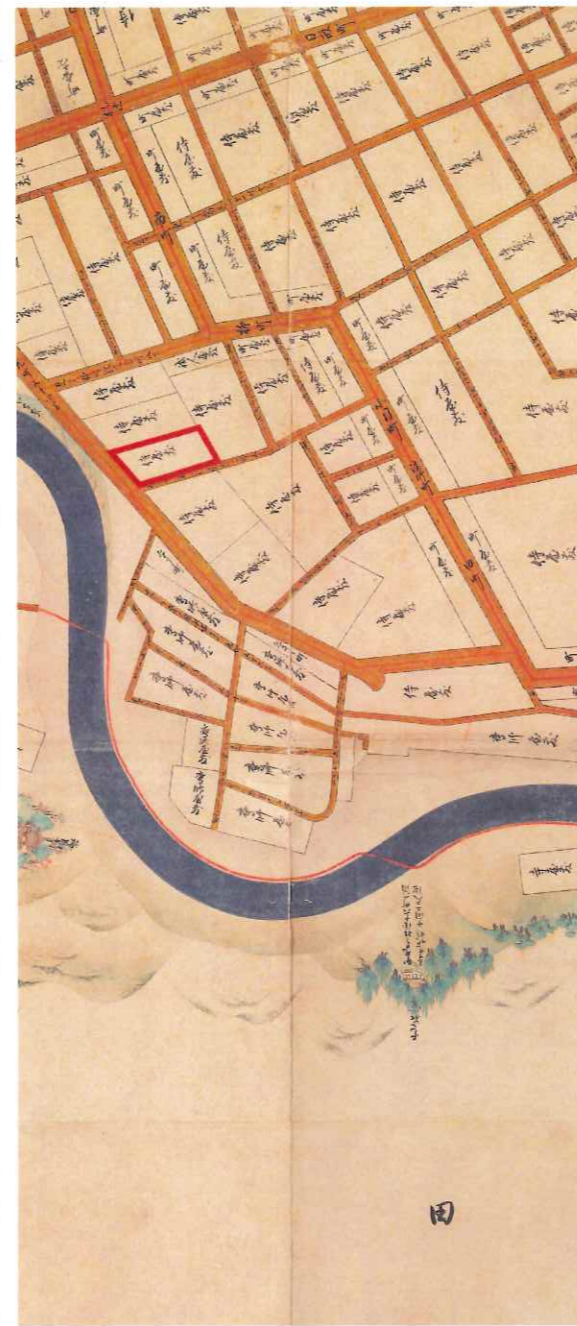


天麟院（五郎八姫）画像 松島・瑞巖寺

2章 牟宇姫への手紙 五郎八姫

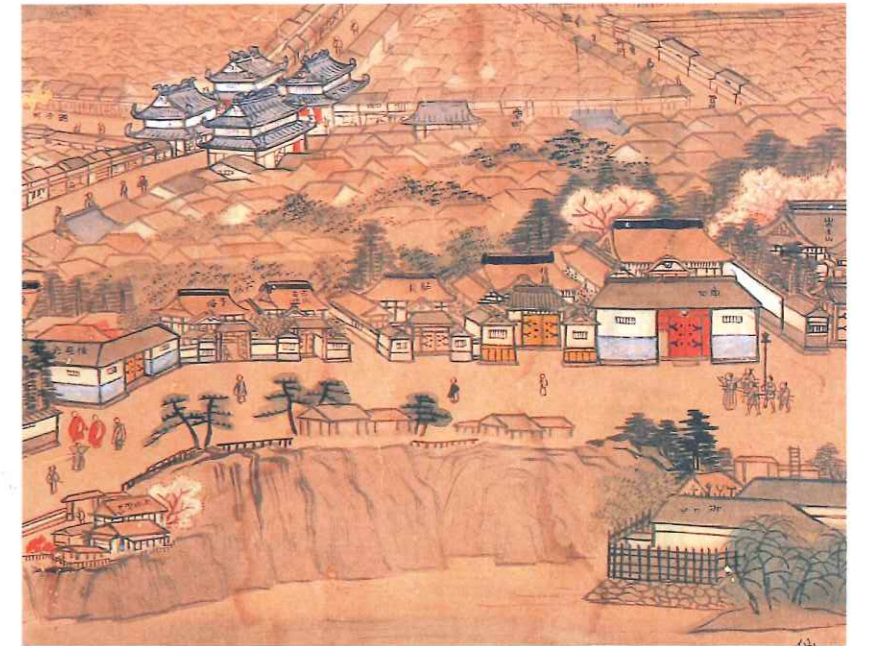


奥州仙台城絵図（部分）正保2年（1645） 仙台市博物館 赤枠が石川家仙台屋敷。



牟宇姫ゆかりの地 仙台

仙台城本丸で生まれ育った牟宇姫は、角田の石川家に嫁いでからも、たびたび仙台を訪れていた。父政宗や姉五郎八姫など兄弟姉妹との交流の様子が手紙に残されている。



仙台城下図屏風（部分）慶応元年（1865） 仙台市博物館
上級家臣の屋敷が並ぶ片平丁。伊達家一門筆頭の家格である石川家の屋敷（右端）はひと際大きく、藩主の息女を正室に迎えた家に許された朱塗りの門が見える。



仙台城 西館（西屋敷）跡（現・東北大学附属図書館付近）
東から西をのぞむ。右が姉五郎八姫居所の西館跡、左が二の丸跡。



現在の仙台城周辺（仙台市青葉区） 赤字が牟宇姫ゆかりの地。



石川家仙台屋敷跡（現・東北大学金属材料研究所）

五郎八姫関係資料

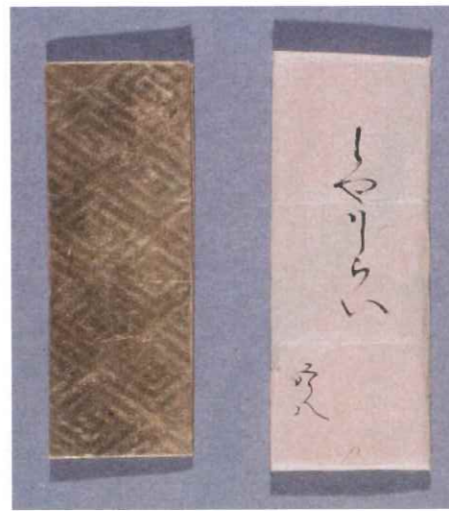
法身像胎内納入資料 五郎八姫納入品 松島・瑞巖寺
 承応3年（1654）、雲居禅師の発願により臨済宗円福寺開山・法身禅師木像が制作された際、当時61歳の五郎八姫は、像の胎内に自筆の写経や父政宗の形見である「柴舟」の香木などを納めた。舍利礼文の包紙にある「五郎八」という署名は、他の手紙などでは確認されておらず、貴重な筆跡といえる。



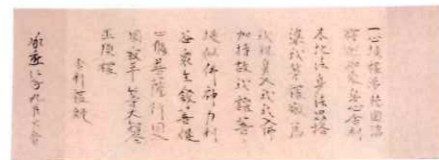
香木「柴舟」 縦2.8×横1.1×厚さ1.4cm



天麟院（五郎八姫）木像 松島・瑞巖寺



写経「舍利礼文」・包紙



写経「舍利礼文」を開いたところ



天麟院（五郎八姫）霊屋 松島・天麟院

牟宇姫への手紙 五郎八姫

一、はじめに

牟宇姫は仙台藩初代藩主伊達政宗（1567～1636）の次女として、慶長13年（1608）仙台城で誕生した。伊達家の正史『治家記録』には「此年、公第二のご息女第九御子御誕生、牟宇姫と称せらる。御母は家女房なり」とある。

牟宇姫が嫁いだ石川家には、牟宇姫宛に送られた手紙の差出人とその数を書き出したと思われる「覚書」（口絵カラー写真参照）があった。差出人は父・伊達政宗や兄弟姉妹などの9人。覚書の最初の項には、「貞山様御自筆 三百廿八」と記されている。貞山様とは牟宇姫の父・伊達政宗のこと。9人の手紙の合計は485通である。

角田市では市史編纂作業の一環として、昭和期に「石川家資料」の調査を行っているが「覚書」もその時に確認されている。歴史上の真実を知るうえで手紙は第一級の資料だが、当時「覚書」に記された内容は特に注目されなかったようである。それらの内容を裏付ける手紙の現存を確認できなかったためと思われる。覚書には伊達政宗が書いた手紙が328通あったと記されているが、「石川家資料」のなかに政宗が書いた手紙はほとんど残っていなかった。前後して仙台市史『政宗文書』発刊のための調査も行われたようだが、その後、「石川家資料」が再び調査をされることはなかったようである。

平成22年（2010）、角田市はブランド推進事業の一環として伊達政宗の娘「牟宇姫」のブランド化を目指すところとなり、翌年、伊達政

碓子 幸枝

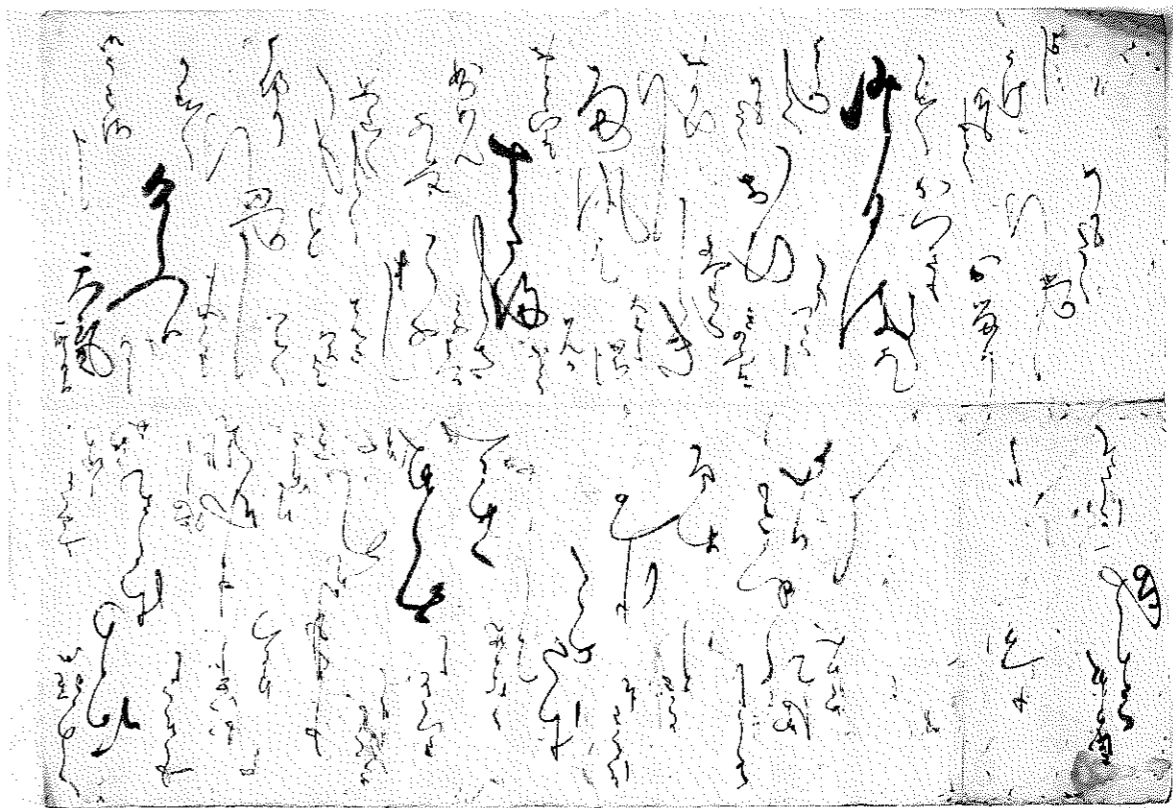
宗研究で知られる元仙台市博物館館長の佐藤憲一氏に協力を依頼し調査が始められた。成果は平成24年（2012）3月に開催された「かくだ牟宇姫ひなまつり」において「伊達政宗と次女・牟宇姫」手紙で見える父娘の絆」と題して講演され、その内容は「広報かくだ」に11回にわたって連載された。この時の記事をもとに加筆修正して発行されたのが佐藤憲一・角田市郷土資料館編著『伊達政宗公の次女 牟宇姫ものがたり』角田市・チャレンジミリオン2016協議会 2019年2月発行）である。

この間、角田市郷土資料館でも牟宇姫に関する調査を進め、「石川家資料」の中に、内容不明として整理された手紙の束があることを発見した。「覚書」に記された手紙の一部と思われるもの、その他合わせて約150通の手紙の現存を確認したのは平成26年（2014）秋の事である。

以来、当館では5年をかけてこれらの史料の整理作業に当たってきた。発見した史料には汚損・虫損などの痛みが見られ、特に状態が悪かったものなど20点は裏打ちを施し解読を行った。その結果、手紙は元和5年（1619）牟宇姫12歳の頃から、延宝2年（1674）67歳までの、おおよそ56年間にわたり、父・政宗をはじめ、兄弟姉妹ら15人から送られたものであろうことが分かってきた。

その内容は、江戸時代初期から前期に生きた大名家の一人の女性の記録として、さらには、戦国大名・伊達政宗とその家族の物語として大変興味深いものである。

これらの資料を『角田市文化財調査報告書第53集～55集 牟宇姫への手紙』（全三巻）として刊行することになり、今度、第一巻目となる「牟宇姫への手紙一 五郎八姫編」について、刊行の機会を得ることになっ



〔7-57-50-3〕石川家資料 37・3×52・9cm

よし	めてたく	この程御	ふたくと
うけ	思ひ	あかり	御帰り
給候	まいらせ候	さうにて	御残多
まゝ	おるり	やくそく申候	思ひまいらせ候
かすく	かいきもよく	かいとう	まん
昨日は	御入候	そく	よし
うれしく	御事つて申候	ひとつ	申たく候
めてたく	きのふは	申事にて	いかゝ
おもひ	大はし	さき申候	御入候
まいらせ候	おち	まゝ	申候や
雨風にて	申候	まいらせ申候	五良殿
おとゝいは	はんか	御なかめ	御めミへ
すさま	ふとゝ	候へく候	かしく
妙あん	みな申候つる	さためて	
御入候へ共	おなし	つはきは	けふか
ふたくしく	てんき	ときに	あす
御事と	あかり申て	進し申候	
御帰り	いよく	御出御さ候	ハんと
思ひまいらせ候	まんそく申候	おかしく候	ハんと
かすく	事	めうあんへ	かしく
御うわさ	けふハ	御うもしへ	にしたり
申候	天気	まいる	
	一昨日ハ		

【原文】

昨日は、おひたゝしき雨風にて、すさまじき、おなし御事と思ひまいら
 せ候、けふハ、天気』あかりさうにてまんそく申事にて御入候、五郎
 殿御めミへ、さためて、けふかあす、御出御さ候ハんと、かしく、』
 めてたく思ひまいらせ候、おるり、かいきもよく御入候』よし、うけ給
 候まゝ、かすくうれしくめてたくおもひまいらせ候、おとゝいは、妙
 あん御入候へ共、ふたくしく御帰り、かすく御うわさ申候、』この程、
 御やくそく申候かいとう、ひとつさき申候まゝ、まいらせ申候、御
 なかめ候へく候、つはきは、ときに進し申候、おかしく候、めうあんへ』
 御事つて申候、きのふは、大はしおち申候ハんか、ふとゝ、ミな申候
 つる、てんきあかり申て、いよくまんそく申候事にて候、一昨日ハ、』
 ふたくと御帰り、御残多思ひまいらせ候よし、申たく候、ちと、
 いもしぎ、いかゝ申候や、めてかしく
 (ウツ書)

十一日

6

民部殿

御うもしへ

まいる

にしたり

【解説】

「にしたり」の署名は五郎八姫が仙台城西館(西屋敷)に住み西館と
 称したことによる。
 牟宇姫三男「五郎殿(石川宗定) 1638-62」のお目見えのため、
 「今日か明日に登城するのでしようね」と書いている。

現代語に訳すと「昨日は夥しい風雨、すさまじさはそなたのところも
 同じだったでしょう。今日は天気が晴れそうで満足しております。五郎
 殿のお目見えはきつと今日か明日にお出でのごこと、おめでたく思いま
 す。おるりの咳の具合も良くなったと聞きました。とてもめでたく嬉し
 いことです。一昨日は妙安が来ましたが、慌ただしく帰ってしまったの
 ですね。先頃お約束していた海棠の花が一つ咲きましたからお送りしま
 す。お眺めくださいませ。椿の花は良い時に送ります。美しく風情があ
 りますものね」といった内容。

「海棠」はバラ科の落葉小高木。桜に少し遅れて薄紅色の花をつける。
 「おるもし(おるり)」とは牟宇姫の長女千代鶴姫か。妙安は牟宇姫の母
 である。

文末、妙安への伝言として「昨日は大橋が落ちはしないかと皆が申し
 ておりました。天気が上がり本当に満足しております。一昨日、あなた
 が慌ただしくお帰りになったから御名残り惜しく思っています」とある。
 広瀬川にかかる大橋は、仙台城大手門と城下町を東西で結ぶ橋。元和
 3年(1617)4月11日の洪水によって流されて以降、何度も流失や
 損壊を繰り返した。

牟宇姫関連年表

※年齢は数え年。続柄は、牟宇姫からみしたもの。

年号	和暦	西暦	牟宇姫年令	角田石川家関係	伊達家・仙台藩関係	その他
17	天明	1589	1	11月4日 石川郡(福島県)領主石川昭光(40歳)、伊達政宗の麾下に属す。	6月5日 政宗(23歳)、蘆名義弘を磐梯山麓上原に破る。	
18		1590	—	昭光、小田原へ参陣せず、秀吉の奥州仕置により所領を没収される。浪々の身となり、信夫郡大笹生(福島市)に移る。	同日 政宗、会津黒川城に入る。	
19		1591	—	昭光、刈田郡森合村(宮城県白石市)に移る。生活の窮乏を政宗に訴え、志田郡松山(宮城県大崎市)を賜る。	2、3月 豊臣秀吉家臣の小田原参陣勧告書を受け取る。	
2	文禄	1592	—	この年、昭光、嗣子小次郎(15歳)、中務義宗と称す。	4月7日 政宗、弟の小次郎を殺害。	
3		1593	—	昭光、朝鮮に出兵。	6月5日 政宗、小田原に着く。同日 秀吉に謁する。	
4		1594	—		7月5日 小田原落城。	
2	慶長	1595	—		8月10日 秀吉、黒川城にて奥羽仕置提書を出す。	
3		1596	—		9月23日 政宗、岩出山に移る。	
4		1597	—		12月 兄兵五郎(秀宗)、柴田郡で誕生。	
2		1598	—		4月 兄兵五郎(6歳)元服、秀吉より偏諱を賜い秀宗と称す。	
3		1599	—		3月22日 政宗、名護屋出陣。6月28日 諸將と共に晋州を攻略。9月18日 名護屋に帰陣。閏9月中旬 京に帰着。	
4		1600	—		6月16日 姉五郎八姫、京の聚楽屋敷で誕生。	
5		1601	—		11月4日 政宗の母養姫(お東)、岩出山を出奔して山形へ向かう。	
6		1602	—		政宗、秀吉より伏見屋敷を下賜される。	
7		1603	—		4月 兄兵五郎(6歳)元服、秀吉より偏諱を賜い秀宗と称す。	
8		1604	—		3月22日 政宗、名護屋出陣。6月28日 諸將と共に晋州を攻略。9月18日 名護屋に帰陣。閏9月中旬 京に帰着。	
9		1605	—		6月16日 姉五郎八姫、京の聚楽屋敷で誕生。	
10		1606	—		11月4日 政宗の母養姫(お東)、岩出山を出奔して山形へ向かう。	
11		1607	—		政宗、秀吉より伏見屋敷を下賜される。	
12		1608	—		4月 兄兵五郎(6歳)元服、秀吉より偏諱を賜い秀宗と称す。	

元	寛永	元	慶長
13	元	1608	13
14	元	1609	14
15	元	1610	15
16	元	1611	16
17	元	1612	17
18	元	1613	18
19	元	1614	19
2	元和	1615	2
3	元	1616	3
4	元	1617	4
5	元	1618	5
6	元	1619	6
7	元	1620	7
8	元	1621	8
9	元	1622	9
10	元	1623	10
11	元	1624	11
12	元	1625	12
13	元	1626	13
14	元	1627	14
15	元	1628	15
16	元	1629	16
17	元	1630	17
18	元	1631	18
19	元	1632	19
20	元	1633	20
1	元	1634	1
2	元	1635	2
3	元	1636	3
4	元	1637	4
5	元	1638	5
6	元	1639	6
7	元	1640	7
8	元	1641	8
9	元	1642	9
10	元	1643	10
11	元	1644	11
12	元	1645	12
13	元	1646	13
14	元	1647	14
15	元	1648	15
16	元	1649	16
17	元	1650	17
18	元	1651	18
19	元	1652	19
20	元	1653	20
1	元	1654	1
2	元	1655	2
3	元	1656	3
4	元	1657	4
5	元	1658	5
6	元	1659	6
7	元	1660	7
8	元	1661	8
9	元	1662	9
10	元	1663	10
11	元	1664	11
12	元	1665	12
13	元	1666	13
14	元	1667	14
15	元	1668	15
16	元	1669	16
17	元	1670	17
18	元	1671	18
19	元	1672	19
20	元	1673	20
1	元	1674	1
2	元	1675	2
3	元	1676	3
4	元	1677	4
5	元	1678	5
6	元	1679	6
7	元	1680	7
8	元	1681	8
9	元	1682	9
10	元	1683	10
11	元	1684	11
12	元	1685	12
13	元	1686	13
14	元	1687	14
15	元	1688	15
16	元	1689	16
17	元	1690	17
18	元	1691	18
19	元	1692	19
20	元	1693	20
1	元	1694	1
2	元	1695	2
3	元	1696	3
4	元	1697	4
5	元	1698	5
6	元	1699	6
7	元	1700	7
8	元	1701	8
9	元	1702	9
10	元	1703	10
11	元	1704	11
12	元	1705	12
13	元	1706	13
14	元	1707	14
15	元	1708	15
16	元	1709	16
17	元	1710	17
18	元	1711	18
19	元	1712	19
20	元	1713	20
1	元	1714	1
2	元	1715	2
3	元	1716	3
4	元	1717	4
5	元	1718	5
6	元	1719	6
7	元	1720	7
8	元	1721	8
9	元	1722	9
10	元	1723	10
11	元	1724	11
12	元	1725	12
13	元	1726	13
14	元	1727	14
15	元	1728	15
16	元	1729	16
17	元	1730	17
18	元	1731	18
19	元	1732	19
20	元	1733	20
1	元	1734	1
2	元	1735	2
3	元	1736	3
4	元	1737	4
5	元	1738	5
6	元	1739	6
7	元	1740	7
8	元	1741	8
9	元	1742	9
10	元	1743	10
11	元	1744	11
12	元	1745	12
13	元	1746	13
14	元	1747	14
15	元	1748	15
16	元	1749	16
17	元	1750	17
18	元	1751	18
19	元	1752	19
20	元	1753	20
1	元	1754	1
2	元	1755	2
3	元	1756	3
4	元	1757	4
5	元	1758	5
6	元	1759	6
7	元	1760	7
8	元	1761	8
9	元	1762	9
10	元	1763	10
11	元	1764	11
12	元	1765	12
13	元	1766	13
14	元	1767	14
15	元	1768	15
16	元	1769	16
17	元	1770	17
18	元	1771	18
19	元	1772	19
20	元	1773	20
1	元	1774	1
2	元	1775	2
3	元	1776	3
4	元	1777	4
5	元	1778	5
6	元	1779	6
7	元	1780	7
8	元	1781	8
9	元	1782	9
10	元	1783	10
11	元	1784	11
12	元	1785	12
13	元	1786	13
14	元	1787	14
15	元	1788	15
16	元	1789	16
17	元	1790	17
18	元	1791	18
19	元	1792	19
20	元	1793	20
1	元	1794	1
2	元	1795	2
3	元	1796	3
4	元	1797	4
5	元	1798	5
6	元	1799	6
7	元	1800	7
8	元	1801	8
9	元	1802	9
10	元	1803	10
11	元	1804	11
12	元	1805	12
13	元	1806	13
14	元	1807	14
15	元	1808	15
16	元	1809	16
17	元	1810	17
18	元	1811	18
19	元	1812	19
20	元	1813	20
1	元	1814	1
2	元	1815	2
3	元	1816	3
4	元	1817	4
5	元	1818	5
6	元	1819	6
7	元	1820	7
8	元	1821	8
9	元	1822	9
10	元	1823	10
11	元	1824	11
12	元	1825	12
13	元	1826	13
14	元	1827	14
15	元	1828	15
16	元	1829	16
17	元	1830	17
18	元	1831	18
19	元	1832	19
20	元	1833	20
1	元	1834	1
2	元	1835	2
3	元	1836	3
4	元	1837	4
5	元	1838	5
6	元	1839	6
7	元	1840	7
8	元	1841	8
9	元	1842	9
10	元	1843	10
11	元	1844	11
12	元	1845	12
13	元	1846	13
14	元	1847	14
15	元	1848	15
16	元	1849	16
17	元	1850	17
18	元	1851	18
19	元	1852	19
20	元	1853	20
1	元	1854	1
2	元	1855	2
3	元	1856	3
4	元	1857	4
5	元	1858	5
6	元	1859	6
7	元	1860	7
8	元	1861	8
9	元	1862	9
10	元	1863	10
11	元	1864	11
12	元	1865	12
13	元	1866	13
14	元	1867	14
15	元	1868	15
16	元	1869	16
17	元	1870	17
18	元	1871	18
19	元	1872	19
20	元	1873	20